

## 医療システムにおける鍼灸師

— 医師を対象としたインターネット調査 —

津嘉山 洋<sup>1)</sup>、増山 祥子<sup>2)</sup>、倉澤 智子<sup>1,3)</sup>、山下 仁<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>東西医学統合医療センター、筑波技術大学保健科学部附属

<sup>2)</sup>森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科

<sup>3)</sup>筑波大学大学院 人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻 保健医療政策学分野

### 【背景】

「現代日本において医療システムに鍼灸師はどのような形で関わっているのか」といった比較的単純なことが、データを基に明確に描出されているテキストを残念ながら私は知らない。もちろん回答は既に存在し誰にでも開かれているが単なる怠慢故に発見できないのだろう。われわれの全国規模の電話調査によれば、おおよそ7%の国民が過去一年の間に鍼灸治療を受療しているらしいが、その数字を多いと見るか少ないと見るかはその受療状況と切り離しては評価できないし、医療システム、殊に医師との関係についての情報は含まれていない。

イメージとしては、医師を中心とした医療専門職の作るドメイン以外に鍼灸師や補完代替医療がかかわるドメインがあり、制度的制約のもとで、微妙に重なりつつ・離れつつ関係していると予想される。それを、まずは医師に対して、鍼灸師とどの程度かわかりを持ったことがあるかというところを切り口にしてみようというのがこの調査である。

### 【目的】

「医療システムにおける鍼灸師」と題しているが、インターネット調査によって医師を対象とした調査を行った。目的は、鍼灸師と医師との連携の現状を医師側から調査し、将来に向けての課題を浮き彫りにすること。

### 【方法】

方法は、インターネットを利用し電子メールによって調査への協力を依頼するアンケート調査である。1万人とか2万人というような、医師の登録モニターという集団を持っている調査会社に依頼し、その登録モニターに対してランダムにメールを送付し、目標回答数（今回は200人）の値に回答が達するまで電子メールを送り続けるという方法を用いた。対象は、登録モニターから無作為抽出された医師であり、年齢を層別化因子として用いた。

質問内容は、①社会人口統計学的事項（年齢、性別など）、②医師としての経験や専門性、に加えて③鍼灸師との職務上の関係、に関する18の項目で構成した。調査の実行は調査会社プラメドに依頼した。

### 【結果】

1000名の医師に対して電子メールを送付して、256名から有効回答が得られた。（回答率25.6%）

①社会人口統計学的事項。性別は男性89.5%、女性10.5%、平均年齢40.7±7.8歳であり、30代、40代が全体の79%を占めた。

- ② 医師としての経験等については、勤務形態で一番多いのは大学病院勤務、次いで（国公立）病院勤務、私立病院といった形で病院勤務医が多く、診療所の経営が16%、病院経営が2名しかいない。
- ③ 鍼灸師との職務上の関係、診療業務上で鍼灸師と接点を持ったことがあるかないかという最初の質問に対して、あるとの回答が28.1%である。さらに、接触経験を有する医師に以下の質問に対する回答を求めた。「鍼灸師との接触頻度」は、数年に一回以下が33%、半年に一回以下が20.8%、年に一回は18.1%。週に一回以上が9.7%であった。

「鍼灸師との職務上の接触内容」（複数回答）で一番多いのが、61%の「（鍼灸師から）鍼灸の保険適用に必要な同意書などの発行依頼がくる」である。逆方向のものとして鍼灸師への施術依頼をするというのが38%ある。それから15%鍼灸師からの診断依頼、あるいは治療依頼がある。そして総体としてみると、その方向性としては鍼灸師から医師に何らかの依頼があるということが多い。3割くらいの医師が鍼灸師と接点をもっていて、そのうちの6割が同意書を発行して下さいと言われている。

「鍼灸師と接触した際にコミュニケーションに困難を感じたことがありますか」という質問に対して、接点を持ったことがあるという医師の中で、「あまりない」という回答が一番多い。「ときにある」あるいは「よくある」というのが、2割前後の回答である。

「どういう点で困難を感じるのか」という設問に対して一番多い回答が、「医学知識が不十分」、次いで「医師との接触の仕方がよく分からない」らしい、「専門用語に違いがある」、それから「同意書の問題」といったように抽出されていくが、専門知識に加えて医療コミュニケーションにおける約束事のようなものの理解がキーポイントになる可能性がある。

#### 【考察及び結語】

医師に対するアンケート調査を行った結果、一般に医師と鍼灸師との間の接触は限られた範囲である事が確認された。医師の多くは鍼灸師と接点を持ったことがなく知識や用語についても別のドメインを構成している。そういう状況の中で、統合医療なり連携を進めていく課題の一つに、鍼灸師と医師の相互理解の促進ということを考える必要があることがわかった。

### 【方法】

- ・ デザイン
  - インターネットを利用したアンケート調査
  - 電子メールによって調査への協力を依頼した
- ・ 対象:
  - 登録モニターから無作為抽出された医師
  - (年齢を層別化因子として用いた。)
- ・ 目標回答者数: 200名
  - (この値に達するまで、依頼人数を増加させる)

### 質問内容

1. 社会人口統計学的項目、
  2. 医師としての経験や専門性、
  3. 鍼灸師との職務上の関係、
- に関する18の項目で構成した。
- ・ 調査の実行は調査会社(㈱プラメド)に依頼した。

### 【結果】

- ・ 回答: 1,000名の医師に対して電子メールを送付し256名の回答が得られた。
- ・ 性別: 男性89.5%、女性10.5%、
- ・ 年齢: 平均40.7±標準偏差7.8歳
  - 30代・40代が全体の79%を占めた。

### 勤務形態

	人	%
病院経営	2	1%
大学病院勤務	63	25%
病院勤務(国公立病院)	40	16%
病院勤務(公的病院)	30	12%
病院勤務(私立病院)	53	21%
診療所経営	41	16%
診療所勤務	23	9%
その他 具体的に	4	2%

### 鍼灸師との接触経験

- ・ 診療業務で鍼灸師と接点を持ったことが
  - あると回答したのは72名(28.1%)
  - ないと回答したのは184名(71.9%)
- ・ 接触頻度は、
  - 数年に1回以下 33.3%
  - 半年に1回 20.8%
  - 年に1回 18.1%
  - 週に1回以上 9.7%

### 鍼灸師との職務上の接触内容 (複数回答)

	人	%
鍼灸師から鍼灸の保険適用に必要な同意書などの発行依頼	44	61%
鍼灸師への施術依頼	27	38%
鍼灸師からの診断依頼	11	15%
鍼灸師からの治療依頼	11	15%
鍼灸師への施術内容・施術計画などに関する問い合わせ	6	8%
鍼灸によって生じたと思われる有害事象についての問い合わせ	5	7%
その他	4	6%
	108	

- ・ 鍼灸師からの保険適用に必要な同意書などの発行依頼が72名のうちの61.1%で最も多く、
- ・ 次に鍼灸師への施術依頼が37.5%、
- ・ 他に鍼灸師からの診断依頼、治療依頼等であった。

鍼灸師と接触した際にコミュニケーションに困難を感じたことがありますか

	人	%
よくある	12	17%
時にある	16	22%
あまりない	35	49%
まったくない	9	13%

鍼灸師とのコミュニケーションに困難を感じたこと(複数回答)

	人	%
同意書の問題	4	14%
医学知識が不十分	11	39%
医師との接触の方法が分からない	6	21%
専門用語の違い	4	14%
鍼灸に対して疑問がある	2	7%
お互いに相手のことを知らない	1	4%
無回答	0	0%

【考察および結語】

- ・ 一般に医師と鍼灸師との間の接触は限られた範囲でしか行われていず、医師の多くは接点を持ったことがないことが明らかとなった。
- ・ その事から鍼灸師－医師間の相互理解の促進が課題のひとつであることが明らかとなった。